



歌声が校舎に響く

10/21 穂高東中「田舎のモーツァルト」音楽会

第18回「田舎のモーツァルト」音楽祭が10月21日、穂高東中学校で行われました。この音楽祭は、同校が詩人・尾崎喜八の詩「田舎のモーツァルト」のモデルになったことにちなんで、在校生や地域の人も参加し毎年行われています。第1部では生徒による演奏や重唱、全校合唱が行われました。演奏を聴いた関喜和さん（穂高）は「子どもたちの演奏技術が高く、心に響きました」と話しました。第2部の招待演奏では、ピアニストの久元祐子さんとテノール歌手の福井敬さんによるコンサートが行われ、ラストには来場者全員で唱歌「ふるさと」を大合唱しました。



手作り作品の魅力を発信

10/15・16 あづみ野クラフトフェア

あづみ野クラフトフェア（実行委員会主催）が10月15日、16日の二日間、豊科南部総合公園で初開催されました。会場では、県内外から集まった作家による、手作りのアクセサリや日用品などが並び、来場者は個性的な作品を手に取り、楽しんでいました。実行委員長の清水哲也さん（松本市）は「安曇野の素晴らしい景色の中で開催したかった。地域が活気づくイベントとして毎年開催していきたい」と話しました。

子どもたちの笑顔と心を育み30年

10/29 穂高西小学校が開校30周年

穂高西小学校開校30周年記念式典が10月29日、同校で開かれました。同校は、昭和62年4月、児童増加に伴い、穂高南小学校から分離独立し、穂高地域の牧、塚原、久保田、柏原、柏矢町の5区を通学区として開校。これまで約2,500人の卒業生を送り出しています。

式典には、在校生のほか来賓、地域住民など約650人が出席し、30年の歩みを振り返るDVDの上映や校歌「いのちの希い」の合唱などが行われました。小林栄子校長はあいさつで、地域の支えと共に校風を育んできたことに感謝を述べ、児童会会長の太塚壮剛くん（6年）は「西小の宝である仲良しの輪を大切に、笑顔あふれる学校にしていきたい」と話しました。

また、記念講演では校歌の作詞者で哲学者の川田殖さんが講演。自分自身で考えて行動することや、命の大切さなど歌詞に込めた思いを語り、「世界や日本のため、命を育て、広い心を持った人になろう」と在校生に呼び掛けました。



秋晴れの下 力合わせて

10/16 4地域で市民運動会

恒例の市民運動会（各地域市民運動会実行委員会主催）が10月16日、穂高地域を除く市内4地域で開催されました。

当日は、子どもから大人まで4地域で合わせて約7,400人の市民の皆さんが参加。各会場ではパン食い競争やムカデ競争、綱引きなど、さまざまな種目が行われ、秋晴れの下、力を合わせて競技する選手たちには大きな声援と拍手が送られていました。

地域力向上へ 決意新たに

10/15 市区長会10周年記念式典

市区長会設立10周年記念式典が10月15日、市役所で行われました。当日は、83区の区長や歴代会長の皆さんなど約350人が出席。会長で柏原区長の熊井深男さんはあいさつで「83区の地域力を向上させ、今後も市民が主役の地域づくりをしていきたい」と決意を述べました。平成19年4月に設立した市区長会は、住み良い地域を目指し、各区が抱える共通の課題に対して、情報交換や解決に向けて取り組んできました。平成26年度には、区のあり方を記した「区マニュアル」を作成。現在は、さらに身近な隣近所のあり方を掲げた「コミュニティ・マニュアル」の作成などにも取り組んでいます。



景観保全 私たち市民から

10/10 シンポジウム「世界に誇る安曇野の景観」

安曇野の景観保全などについて考える、シンポジウム「世界に誇る安曇野の景観」（長野県建築士会安曇野支部主催）が10月10日、穂高交流学習センター「みらい」で行われました。この日は、市民など約150人が出席。市内在住で古民家再生の第一人者で建築家の降幡廣信さんの基調講演のほか、公開討論では、市に関わりのある皆さんや移住した皆さんが、安曇野の風景の素晴らしさや景観保全について意見を述べました。パネラーからは、市民が意識して保全に取り組む必要性を会場に呼び掛けていました。